

探鳥会スタッフ通信

2013 年
10月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

◆安西英明の探鳥会講座

「識別で終わらない探鳥会」・・・・・・・・・・ 1

◆探鳥会のリスクマネジメント講座

「スズメバチ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

◆探鳥会訪問記 特別編（埼玉・リーダ研修会
参加報告）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

◆探鳥会保険集計結果（2013年8月分）・ 8

◆協働探鳥会：仲間を増やすための探鳥会にお
ける東京の取り組み・・・・・・・・・・ 10

◆普及室からのお知らせ

・「創立 80 周年記念写真展『未来に残したい
鳥風景』写真募集」・・・・・・・・・・ 11

◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・ 11

◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

◆安西英明の探鳥会講座

「識別で終わらない探鳥会」

柴田敏隆さんは前回紹介した故金田平さんとともに「柴金コンビ」として名を馳せ、自然保護教育における先駆的、双璧と言える。私もこのお二方からはいろいろ教えてもらった。当時はまだ環境教育という言葉が殆ど使われておらず、当会では1981年のウトナイ湖サンクチュアリ開設の頃、サンクチュアリは環境保全と環境教育の場であるとして使い出したものと思われる。今では環境教育学会で当会スタッフも発表する時代になっているが、1970年代に柴金コンビが言っておられたことは、今なお傾聴に値する。

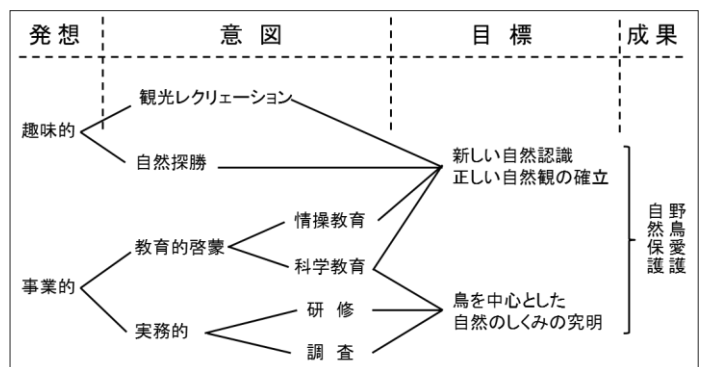
*探鳥会の成果と指導

1973年に始まる野鳥誌の連載、柴田さんの『探鳥会のあり方と技術』から抜粋してみたい。表は連載第1回『序論—探鳥会の性格』のもので、「探鳥会実施の趣旨や機能から区分すると次のような表になる」と書かれた上で、次のような補足がある。

「表の中で研修というのは、自然を対象とする職業の人々が、その職務上の必要性から行う探鳥会で、例えば鳥獣保護員のワークショップで行われる場合など」「調査とあるのは、ある地域や時期に鳥相や生息密度、食性、行動などを究明する必要上行われる探鳥会」

連携団体の行事として皆様が普段関わっておられる探鳥会は、表の「意図」からすれば「自然探勝」や「教育啓蒙的」に位置するのではないだろうか？「意図」が「観光レクリエーション」でも「研修」であったとしても、「成果」として書かれている事柄はいずれに

せよ「自然保護、野鳥愛護」である点は、前号で私の連載から記した探鳥会の役割「会の理念の考え方を普及する」と矛盾しないと思う。探鳥会を担当する側でたくさんの種を見る、珍しい種と出会うなどに腐心する方もいるが、それらは目標や成果に至る方法の一つにすぎないということを確認しておきたい。



▲表『野鳥』1973年1月号『探鳥会のあり方と技術』
第1回より抜粋

連載第4回『担当者と指導者』で柴田さんは、指導者について、こう記している。

「探鳥会の指導者は、先生より、案内者、奉仕的姿勢が大切である。つまり高踏的に教え込むよりも、参加者の自発的な学習意欲を上手に刺激して、自分の力で学びとるのを援助する姿勢が大切である。見ることを強いるよりも、見せることに意を用い、活発な質疑応答がやりとりされるような形が望ましい。」

より具体的に、指導内容についても記してある。

*それぞれのすみかを考える

「探鳥会の指導者は基本的には、鳥の野外識別を中心に指導にあたるわけであるが、単なる個々の種類の識別だけでなく、環境との結びつき、その鳥を中心とした食物連鎖、生態系の中で占める地位などにも広く目を向け、同時に保護の理念や技術などにも及んだ解説をして欲しい。」

探鳥会が正しい自然認識や当会の理念の普及に貢献するために、環境との結びつきをまとめた段階で考えてもらう例を、日本野鳥の会オリジナル書籍『野鳥と自然の解説実践ハンドブック』から紹介しておくことにする。プログラムとして紹介された40項目のひとつで、図は省かせていただく。

18 それぞれのすみかを考える

●鳥合わせて環境を考える

野鳥の種類と、そのすみ環境の多様性やつながりをテーマに、探鳥会のまとめた段階（鳥合わせ）で発言の場、考えてもらう場を設定します。

準備

複数の環境区分ができ、おのおの環境ごとの野鳥が観察されるような場所、コースを設定します。また、種類によっては環境がはっきりしないもの、複数の環境にまたがるもの、意外な環境で観察される場合などがあるので、あらかじめ環境区分と予想種類を想定しておく方がよいでしょう。探鳥コースの代表的な環境を区分した模式図を事前に配布し、参加者にどこにどんな野鳥がいたか記入してもらうと効果的です。

展開例

- ①探鳥終了後集まってもらいます。
- ②環境区分ごとに観察した種類を参加者からあげてもらいます。
- ③参加者からあがらない場合、区分が簡単にいかない種類、種類もれはリーダーがフォローします。

まとめ

- ①「さまざまな種類の野鳥たちは、勝手気ままに飛んでいるわけではなく、それぞれくらす場所がだいたい決まっています。くらす場所が違うことは、種類間でむだな争いをせずに済むという利点が考えられます。このことは野鳥に限らず、野生生物の共存のしくみといえるでしょう。
- ②「さまざまな種類がくらししていくには、さまざまな環境がそれぞれ必要です」。
- ③環境ごとに設問し、「この環境がなくなったら、どんな種類が困るか」を複数問いかけることを②の前にやると効果的。

●実施例

実施日：1990年12月25日

10～14時の探鳥会のまとめとして、20分程度実施。

場所：東京・多摩川中流域の川原

参加者：カルチャースクール受講生、中～高年の男女約30人。（1週間前に室内のバードウォッチング入門講座を実施した後の探鳥会）

展開：

①探鳥会のあいさつ時にア：林、イ：背丈の高い草地、ウ：木のある草地、エ：背丈の低い草地、オ：水際、カ：水面という環境区分の模式図を1人1枚手渡し、野鳥を観察した

ら、どんなところにいたかを注意しておくようにアドバイス。

②まとめのときは、静かで、座り心地がよく、参加者から自分が逆光にならない土手に座ってもらった。

③問い「水面にはどんな野鳥がいましたか」、「カルガモ」といった具合に、環境区分ごとに問いかけ種類をあげてもらった。ア：ヒヨドリ、イ：アオジ、ウ：ジョウビタキ、エ：ヒバリ、オ：コサギなどに加えて人家にスズメ、上空でチョウゲンボウなど計35種類があげられ、まとめの例①のせりふでまとめとした。

■冬の多摩川中流域での例（図）

▲『野鳥と自然の解説実践ハンドブック』1992年 第3章 18.それぞれのすみかを考える
より抜粋

（普及室/安西英明）

◆探鳥会のリスクマネジメント講座

シリーズ第7回: スズメバチ

秋が近づくと、スズメバチによる被害がマスコミ等で報道される。課外授業やハイキングなどでスズメバチに刺される被害が少なくなく、探鳥会も例外ではない。

野外における危険な生物の中で、最も恐ろしいのがスズメバチだ。一般的にはマムシやクマの方をより恐れるが、死亡者数の点からいえばスズメバチの方がはるかに多い。あるデータでは、ハチによる死亡例が年間平均43人で、その約8割がスズメバチによるとされている。したがって、一般の認識以上に注意を払う必要がある。しかし、これほど危険な生物であるにもかかわらず、スズメバチの生態や危険回避のための対策などは意外と知られていないのが実状だ。

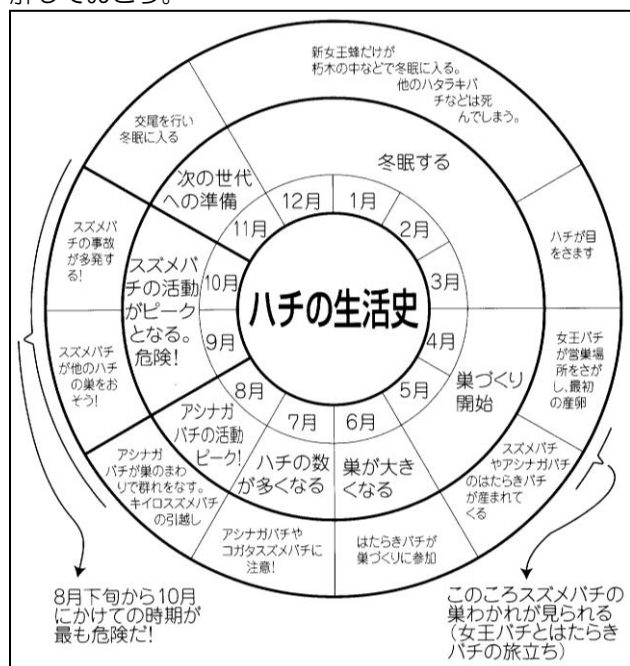
*ハチのなかまは？

ハチのなかまは、形態的にも生態的にも極めて多様性に富んだグループである。特に集団生活を行う社会性の発達が進んでおり、注目される。また、翅が特殊化しており、昆虫の仲間では最も早くかつ極めて巧みに飛翔するグループでもある。

ハチは、全世界で13万種以上が知られており、日本では4,500種余りが知られている。このハチの仲間には、スズメバチのほかにミツバチやマルハナバチなど多くのなかまがいる。

*ハチの生活史は？

9月にスズメバチを紹介するのは、9月から10月にかけての時期が最も危険な時期だからである。次のサイクル図をみて、スズメバチの生活史をよく理解しておこう。



▲コガタスズメバチの初期の巣
(女王蜂による単独営巣期の巣)



▲コガタスズメバチの標準サイズの巣(分業期以降の巣)

*すべてのハチが刺す？

ハチのなかまは、全てのハチが刺すものだと思っている人が意外に多い。あまたいるハチのなかまの内、刺すのはほんの一部のなかましかいないことをしっかり学習しておこう。

刺すのは、スズメバチのほかではアシナガバチ、ミツバチ、マルハナバチの4つのグループに限られる。よく人が刺されるハチは、これらの中のごく一部のスズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ、クロスズメバチなどである。

また、人を刺すのはメスだけだ。巣を守ったり餌場を占拠したりする働きバチはメスだけであり、これらのメスが刺す。オスはけっして刺さない。もともと毒針は、産卵管に由来することを考えれば、メスだけが刺すことを理解しやすいであろう。

*ハチは一度だけ刺す？

これは、ミツバチに限った話である。ミツバチの針は一度刺すと抜けてしまい、肌に突き刺さった状態で残る。



▲ハチの針は産卵管が変化しただけ

*スズメバチってどんなハチ？

スズメバチは、スズメバチ科のハチの総称で、日本には16種類が知られているが、一般にスズメバチというときには大型のスズメバチ属の7種をさす。

スズメバチの中でも、最も被害が多いのはキロスズメバチである。その他、オオスズメバチ、モンズメバチなどが攻撃性が強い。また、木の枝に巣をつくるコガタスズメバチも要注意である。

先に述べたとおり、スズメバチは野外における最も危険な生物であり、ハチによる死亡例は年間25~73人(平均43人)、内8割りがスズメバチによるものだ。従って、スズメバチの習性等をよく知り、対応策を熟知しておく必要がある。

*攻撃の4段階

スズメバチの攻撃には、次のような4つの段階がある。どのレベルの攻撃かによって、対応行動も異なってくるので、しっかり把握しておこう。

①巣への接近に対する警戒行動

巣に近づくと、巣の出入り口や表面にいるハチが警戒しだすと共に、一部のハチが巣を離れて周辺を飛び回る。

②巣への接近に対する威嚇

巣の周辺の数mから10数mの範囲内を飛び回っていた偵察バチが、近づいて大きな翅音をたてて飛び回り、カチカチという威嚇音を発する。これは、「これ以上近寄ったら攻撃を加えるぞ」というスズメバチ特有の警告なのだ。

③巣への間接的的刺激に対する攻撃

巣のある部分に振動を与えたりすると、威嚇中のハチや巣内から飛びだしてきたハチがまっすぐ飛びかかって刺す。これは、既に巣内に警戒フェロモンがまき散らされているためである。

④巣への直接的刺激に対する攻撃

この場合は、ハチは威嚇なしに直接飛んできて刺す。興奮の激しい場合は、噛みついて離れず、何度も毒針を突き立てる。現場から遠ざかっても、10数m

から数10m追いかけてくる。

*追いかけられたらどうする？

追いかけられたら逃げるしかない。ハチは、動きの遅いものや静止しているものをうまく判別できないことから、動かずにじっとしていることも考えられるが、ケースバイケースだ。また、目の特性から水平より下部が見えにくいいため、しゃがんだりすると一度は回避できるが、反転して再び襲ってくるので、これも得策とは言い難い。

特に、巣を刺激して追いかけられたときは、深刻である。地面に伏せるなどしてハチの攻撃をかわしたほうがよい場合もあるが、いったん攻撃に転じたハチはいくら振り払っても執拗に攻撃してくるので、巣の近くにとどまることは非常に危険だ。

*石になる？

野外でよくスズメバチが単独で飛んできて、人のまわりを飛び交うことがある。これは、餌などを探して飛び回っているだけで、おどし攻撃ではない。追い払ったりせずにじっとして石になっていることが肝要だ。そのうち飛び去っていく。

重要なのは、探鳥会の参加者に対して、出発前に知らせておくことだ。単独で「遊覧飛行」してきたハチでも、ハチの生態を知らない参加者たちはパニックに陥ってしまう。大騒ぎしたり振り払ったりしてしまうからでは遅いので、探鳥会開始時における注意喚起が不可欠である。



▲このような場合でもじっと石になって動かないこと

*刺されたらどうする？

ハチに刺されたときの対処方法として、「アンモニア水を塗って中和させるとよい」などの誤った情報がまことしやかに言い伝えられてきた。また、「アロエやタマネギ、ヘクソカズラ、渋柿などの汁をつけるとよい」といった言い伝えも古くからある。これらは、科学的根拠のないものとされており、指導者が行うべき対処方法とは言い難い。ハチに刺された場合、次のような対応が必要である。

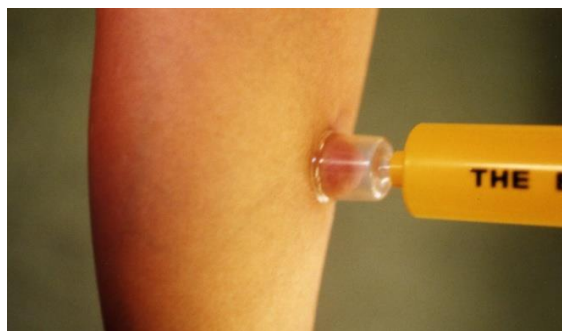
①冷たい流水で患部を洗い流しながら、毒を血液といっしょにしばらく出す。この時、専用の絞り出し器があると便利。(リーダーはぜひ持参しよう。)

②痛みやはれは、水や保冷材などで冷やす。(マムシに噛まれた場合には、冷やさない)

③市販の抗ヒスタミン剤を含んだステロイド軟膏を塗る。

④気分が悪くなったり息苦しくなったりした場合は、ショック症状の前兆の可能性が高い。すぐに病院に行き治療を受ける。

また、症状の重い場合には、あおむけにして頭を低くしたり、心臓に近い部分を縛る（但し、数分後には縛りをゆるめる）、タンニン酸などの蛋白凝固剤を塗るなどの対応も有効といわれている。



▲ 毒の吸い出し器：探鳥会にはぜひ準備しておきたい道具の一つである

*ハチアレルギーに注意

ハチアレルギー体質の人は、何度か刺されているうちに、アナフィラキシーショックを起こし死亡することがある。（ハチに刺されると体内に抗体ができ、毒に対する反応が強くなる。ふつう抵抗力がつくと思いがちだが全く逆で、刺されるたびに毒に対する反応が強くなり、ショック症状を起こすことがある。一度刺されたら、次からは注意が必要だ。）なお、重傷の場合、全身症状が起こるのは10～15分といわれている。

*ハチ豆知識

- ・ハチが人を刺すのは攻撃ではなく防御である
- ・警戒飛行してきたら速やかに退散
- ・頭や目など黒いものをめがけて攻撃する習性あり
- ・ひらひらするもの、純毛製のもの、毛皮なども要注意
- ・もし頭などに飛来したら、払いのけずに叩きつぶす
- ・香水、ファンデーション、整髪料などの匂いに対し敏感となる。芳香性のものには使用しないこと
- ・針が残っていたら、つまんで取ってはダメ（針の中に入っている毒をさらに入れる恐れあり→ミツバチの場合）
- ・オオスズメバチは世界最大のスズメバチだ（体長；女王バチ45mm、働きバチ37mm）
- ・4月下旬～5月ころ、ミツバチが巣分かれして女王バチと働きバチが旅立つ

■自己注射器が使用可能に

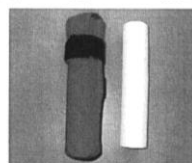
ハチアレルギーの人たちが、刺されてショック死することを防ぐため、2003年から一般の人でも自己注射器エピペンの使用が可能になった。2回目以降のハチ刺されで起こるアナフィラキシーショックの症状緩和に有効。ただし、エピペンの購入には、医師

の診察と処方箋が必要。販売元のメルク（株）は、エピペンを処方する医師に対して事前に製品説明を行い、同意を得られた医師を「アナフィラキシーに関する相談を受け付けている医師」として紹介している。メルク（株）TEL：0120-933-911



蜂刺され対策商品のご案内

「蜂刺され対策用自動注射器」が、平成15年8月から販売されました。当商品は、注射器の保護・携帯用として「免脱スチロールの容器と布製袋」からなる「注射器保護容器」です。



免脱スチロールの容器（右）と布製袋（左）



布製袋をバンドに通して腰に固定したところ

- ◎自動注射器保護容器 1,155円/1個（消費税込）
軽量で、作業中ベルトに付け、緊急時には直ぐ取り出せます。（写真）
- ◎蜂毒吸引器 フランス製 17,640円（6個入り、消費税込） デンマーク製 10,080円（12個入り、消費税込）
蜂刺され傷口にあて、吸引作用で毒液を抽出します。
- ◎防蜂網は小松式等、各種あります。

（販売部）

お申し込み・お問い合わせは 財林野弘済会へ

▲ 林業弘済会のパンフレットより

【参考】 アブとハチの見分け方

「虻蜂取らず」ではないが、アブとハチは似て非なる昆虫だ。ハチは多くの昆虫同様に4枚の羽をもっているが、アブのなかまは2枚しか羽がない。アブは、後ろ羽のかわりに後ろの方に平均こんと呼ばれる小さな突起をもっているの、観察してみよう。このほかハチは腰がくびれるものが多いが、アブはくびれないことや、ハチの触角は太くて長い、アブは糸状で長さも短いこと、ハチの目はレンズ状でつるつるしているが、アブの目は表面がぶつぶつした感じで両眼がくっついていることなどが見分けるポイントだ。



アブ

ハチ

（理事長/佐藤仁志）

◆探鳥会訪問記 特別編（「埼玉・リーダー研修会」参加報告）

日本野鳥の会埼玉のリーダー研修会は、1985年から原則年1回のペースで続けられており、今回は30回目にあたるそうです。研修の対象者は埼玉のリーダー全員で、特に新規にリーダーになる方は必ず出席する必要があります。

研修は藤掛代表の挨拶に始まり、ブレインストーミング「探鳥会を演出する」、昼食を挟み、自己紹介、各部からの報告、新規リーダーへの腕章授与という内容でした。探鳥会スタッフ通信では特にブレインストーミング「探鳥会を演出する」について報告いたします。

※ブレインストーミングとは、参加者全員でたくさんの意見を出し合うことで、案をまとめたり、新しい発想を生み出したる手法です。

* 研修会開催概要

【日時】 2013年9月1日
9時30分～16時30分

【場所】 埼玉県自然学習センター

【スケジュール】

09:30 開会

09:35 藤掛代表挨拶

09:45 ブレインストーミング「探鳥会を演出する」

12:00 昼食

13:00 研究部報告

13:15 自己紹介

14:45 日本野鳥の会埼玉の概況（事務局・総務部）、普及部、編集部、事業部、野鳥記録委員会、鳥獣保護員からの報告

15:55 代表講評、腕章授与

16:30 閉会

【参加者】 54名（＜日本野鳥の会埼玉＞運営3名：藤掛保司氏（代表）/海老原美夫氏（副代表、事務局長、総務部長）/橋口長和氏（普及部長）、リーダー44名、新規リーダー5名、＜財団普及室＞生田南美子/堀本理華）

*ブレインストーミング「探鳥会を演出する」

① リーダーの役割

ここではリーダーの役割についてディスカッションをしました。

まず、会場から「リーダーの役割とは何か？」について意見を聞き、書き出していきました。鳥を見て楽しむ/身近なところでも命の営みに気付いてもらう/安全管理、マナーの指導/参加者への目配り、初心者への気遣い、交流を作る/タイムキーピング/自分の能力を高めるなど、次々に意見があがりました。

これを受けて、橋口普及部長から、「探鳥会は『野鳥』を介して、老若男女みんなが楽しめるエンターテイメントである。そうしたときに、リーダー一人一人は演出家であり役者であり裏方であると考えられないだろうか？」という投げかけがありました。参加者からは、



▲ 議論の様子

「探鳥会に行っても声を掛けてくれる人が少なかった。リーダーの腕章を付けている以上、心がけが必要だと思う。」「リーダーに気遣っていただき、マナーなども教わり、今リーダーをやる気になっている。初心者への気遣いは重要だと思う。」との声が聞かれました。

橋口普及部長から、リーダーにとって鳥の識別能力や知識は必要条件ではなく、それよりも「鳥を介して参加者が楽しむ」ことや「声を掛けあって楽しむ」ということが、埼玉としてのリーダーの条件だということが確認されました。

② 問題リーダー

リーダーにとって怖いことはむしろ「慣れ」であるとして、三室地区を担当しているリーダーから、埼玉を含むいろいろな探鳥会で見かけた気になったリーダーたちについて情報共有がありました。

「これって、どう思う？ 探鳥会で見かけた＜問題リーダー＞」 作成：小林みどり氏 ※一部抜粋・改変

【その1：普通種を見せないリーダー】

◎あるリーダーがハシブトガラスを見せていると、別のリーダーが現れて「そんなつまらない鳥見てないで、カワセミ見に行こうよ」と連れて行った。参加者にとっては、その鳥についての知識を得る機会を失われてしまっただけでなく、参加者に「鳥の中にはつまらない鳥がいるらしい」「探鳥会では、つまらない鳥を見てはいけないらしい」という余計な知識が植えつけられてしまった。

→ベテランにとっては見飽きた普通種でも、初心者にとっては新鮮な出会い。望遠鏡でアップにしたところを見たらいろいろな感動がある。また普通種をよく観察することは識別の基礎でもある。

☆普通種について興味を持ってもらうにはどんな解説をしたらよいのか常にネタ探しを。

【その2：説明不足のリーダーたち】

◎池でバンを見つけ、望遠鏡に入れて「バン入っています。見てください。」これで終わり。

→初心者にとっては何をどう見ればよいのか、「見る」ポイントも分からない。

☆ベテランリーダーが必要に応じて説明や補足をする、間違いを正す、といった協力体制が求められる。

◎上空で飛ぶタカを見つけ、双眼鏡でのぞいた瞬間に「ノスリの若鳥、メス！」これで終わり。

→一瞬にしてポイントを観察して識別するレベルに達している人は、ほとんどいない。そういう人たちにどうやって今の鳥を識別したのか説明する必要がある。

☆他のリーダーが目配り、参加者に代わって質問するとよい。

【その3：列の最後尾に集まって、おしゃべりを楽しむリーダーたち（を作ってしまうメインリーダー）】

☆メインリーダーは、リーダーとして参加してくれた人たちにヒマな思いをさせないように、上手く仕事を割り振ることも重要な役割である。

慣れてくると陥りやすいケースについて共有したのちもさらに議論は白熱し、予定していた模擬探鳥会を取りやめて続けられました。最後は橋口普及部長から、今後1年間の目標を「初心者との対話を重視すること」にしてはどうかという提案があり、同意の拍手の中、終了しました。

*参加者の声

新規リーダーからは、
「10年以上探鳥会に参加していましたが、今恥ずかしい気持ちでいっぱいです。リーダーの方たちがこれ程

までに多くのことを考えながら探鳥会の運営をされていることを知り心に沁みました。」

「探鳥会には数年前から小学生の息子と参加するようになりました。もっと趣味の集まりなのかなと思っていましたが、リーダー研修会で皆さんが現実論を語られていることに安心しました。」

ベテランリーダーの方からは、
「探鳥会がマンネリ化していましたが、耳に痛い話もあり、初心を思い出し、探鳥会の運営に取り組みたいと思いました。」

「毎年参加していますが、皆さんの議論を聞き、心新たに頑張ろうという気持ちになりました。」

という声が聞かれました。

*まとめ

埼玉には5名の新規リーダーを含む118名のリーダーがいるそうですが、今回はその内の4割以上の方が参加されました。リーダー間の情報共有のために毎年実施されているこの研修会、以前は上意下達の色が強かったそうですが、2、3年前からディスカッションの形をとっており、今回も活発な議論が交わされていました。新規リーダーにとってもベテランリーダーにとっても様々な気付きや刺激があり、とても有意義な取り組みだと思いました。



▲藤掛代表から新規リーダーへの腕章授与が終わり、記念撮影。
左から新規リーダーの5名、藤掛代表、堀本、生田。

(普及室/堀本理華)

◆探鳥会保険集計結果（2013 年8月分）

8月は64支部からご報告をいただき、計160回の探鳥会が開催され、のべ2,761人が参加されました。

表1. 8月の探鳥会保険集計結果（2013 年9月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	-	-	-	-	-
オホーツク支部	2	46	19	2	67
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	2	14	12	4	30
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	14	1	2	17
道北支部	-	-	-	-	-
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	2	38	7	5	50
小樽支部	2	4	6	3	13
苫小牧支部	-	-	-	-	-
室蘭支部	3	36	9	6	51
函館支部	-	-	-	-	-
道南桧山	1	11	7	4	22
あおもり	-	-	-	-	-
弘前支部	3	25	3	3	31
秋田県支部	4	43	3	4	50
山形県支部	-	-	-	-	-
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	1	10	4	3	17
北上支部	1	12	0	2	14
宮城県支部	3	32	4	5	41
ふくしま	1	26	0	2	28
郡山支部	3	28	0	6	34
二本松	1	5	0	1	6
白河	1	2	0	1	3
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	14	1	1	16
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	8	92	38	10	140
栃木	-	-	-	-	-
群馬	5	52	40	13	105
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	4	93	9	34	136
千葉県	5	34	4	24	62
東京	12	250	11	59	320
奥多摩支部	7	76	10	24	110
神奈川支部	9	102	12	30	144
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	1	13	1	1	15
石川	2	40	2	5	47
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	1	10	3	2	15
軽井沢支部	1	11	11	1	23
諏訪	1	15	56	3	74
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	-	-	-	-	-
甲府支部	2	44	1	4	49
富士山麓支部	1	4	8	3	15
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	12	2	2	16
南富士支部	1	26	1	2	29
南伊豆	1	2	0	2	4
静岡支部	-	-	-	-	-
遠江	1	22	1	3	26
愛知県支部	7	25	17	17	59
岐阜	-	-	-	-	-
三重	1	4	2	2	8
奈良支部	3	78	10	6	94
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	2	6	1	4	11
京都支部	4	47	19	8	74
大阪支部	11	51	18	42	111
ひょうご	4	41	45	16	102
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	18	17	3	38
島根県支部	0	0	0	0	0
岡山県支部	3	35	34	12	81
広島県支部	2	20	14	2	36
山口県支部	1	10	32	3	45
香川県支部	2	35	4	3	42
徳島県支部	5	39	2	5	46
高知支部	1	6	5	1	12
愛媛	2	27	20	5	52
北九州	1	6	0	1	7
福岡支部	6	40	5	10	55
筑豊	1	5	0	1	6
筑後支部	0	0	0	0	0
佐賀県支部	1	3	0	1	4
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	1	8	5	2	15
大分県支部	0	0	0	0	0
宮崎県支部	2	12	1	2	15
鹿児島	2	20	4	4	28
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	160	1,794	541	426	2,761

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆協働探鳥会：仲間を増やすための探鳥会における東京の取り組み

全国的に会員数が減少しているなか、毎年 11 月に東京、神奈川、奥多摩の 3 団体と財団普及室が協働で探鳥会を実施しています。この探鳥会は会員数を増やすことを目的とした探鳥会です。9月号に引き続き、東京の川端一彦さんからお聞きした協働探鳥会での取り組みについてご紹介いたします。

■協働探鳥会の成果

- 協働探鳥会の成果は出始めていますか。

川端 2011年は「井の頭公園でバードウォッチング」に70名の参加があり、その約23%に当たる16名がお試し入会、半年経って正式入会した方が8名（約11%）いました。2012年はイベントを「井の頭公園でバードウォッチング」と「代々木公園・巣箱かけ教室」の2回実施しており、それぞれ38名と9名の合計47名の参加があり、そのうち11名（約23%）がお試し入会、3名（約6%）が正式入会してくださいました。この年は雨が降ってしまったこともあり、参加者が集まりませんでした。だからおそらく東京の実力は23%くらい。4人に1人くらいは入会させられるかなという感じですね。

- 他の例がないので多いか少ないかの客観的なことは言えませんが、感覚的にはすごく良いですね。

川端 そうですね。感覚的には手ごたえがある感じがしますね。

■2013年の予定

- 今年度はどのように進める予定ですか。

川端 2011年は取りあえず型を作るということで実施し、2年目はイベントを2回に増やして、巣箱かけ教室も入れました。これは毎年会員向けにやっていたイベントでしたが、野鳥の会の外の人にとってこれほど分かりやすいイベントはないだろう、「バードウォッチングをしましょう」よりも「巣箱の手入れをしましょう」の方が、イメージが湧くだろうと思い、入れてみました。巣箱を開けてみると越冬中の昆虫が出てきたりして冬に見ると面白いのでインパクトもあり、保護の活動にもなり、イベントに厚みも

出てくるので良いと思いました。当日は大雨でしたので効果が分かりませんでしたが、生き物と環境のつながりが肌で感じやすいので、一般向けに育て上げていったらとても良いイベントになると思います。今年もまたやりたいと思っています。

また、お試し入会していただいたあと、11月から4月までの間に、1回初心者向けの観察会をやろうと思います。そこにお試し入会した方たちが来てくだされば、正式入会への弾みがつくだろうという目論見です。昨年はその日はすごく冷え込んで、お試し入会者の参加が1人もいませんでした。そこはどう改善するかは課題ですが、半年の間にワンクッション何か参加出来るようなイベントをしようと思います。

あとは、一昨年は4月の正式入会の勧誘レターのみでしたが、2年目は3月下旬にご様子を伺うような絵葉書を出しました。キビタキの写真に簡単な文章を付けたもので、これの目的は正式入会につなげるということです。もっと細かく言うと、普段の探鳥会に来てもらい、一般の会員の人と交流してもらい、リーダーだけでなく会を知ってもらい、最後に入会につなげるということです。初めに申し上げた特別なツールを用意しないというのも実はここと関係があり、特別なツールを用意して勧誘し、お試し入会してもらってしまうとその後普段の探鳥会に参加したときに、ギャップが大きくて、「サービスが良くないではないか」になってしまうため、「普段通りのやり方にしましょう」と呼びかけています。今年は新しいアイディアはないので、新しいことを盛り込むということではなく、しっかりとやるべきことをやろうと思います。

- どうもありがとうございました。

（普及室/箱田敦只・堀本理華）

◆普及室からのお知らせ

■創立 80 周年記念写真展「未来に残したい鳥風景」写真募集■

日本野鳥の会は、2014 年に創立 80 周年を迎えます。普及室では創立 80 周年を記念して、キャノンマーケティングジャパン様にご協力いただき、写真展「未来に残したい鳥風景」を開催することになりました。

この写真展では、未来に残していきたい野鳥と野鳥のいる風景を全国の野鳥写真愛好家の方々からご応募いただき、写真展として多くの方々に見ていただくというものです。これまでの 80 年を振り返りながら、今後の野鳥保護への決意を新たにしていける機会としたいと考えております。

●テーマ：未来に残したい鳥風景

●応募受付期間：2014 年 4 月 4 日～4 月 30 日

●応募要項は当会ホームページで公開します(10 月下旬公開予定、トップページをご確認ください)。要項の郵送をご希望の方は、下記までお問い合わせください。

●お問い合わせ：普及室 普及教育グループ

電話 03-5436-2622/FAX 03-5436-2635/
メール nature@wbsj.org

詳しくは会誌「野鳥」11 月号、および当会ホームページ (<http://www.wbsj.org/>) に掲載します。たくさんのご応募をいただきたく、ぜひ会員のみなさまへご周知をお願いいたします。

(普及室/江面康子)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。(無料です)

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス(パソコンやスマートフォンのアドレス)を記入し、

tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

季節外れの暑さが続きますが、通りを歩くと金木犀が香り、秋の深まりが感じられます。

埼玉のリーダー研修会では、日々探鳥会運営に取り組まれている皆さんの考え方や熱意に直接触れることができ、とても貴重な経験になりました。11 月の連携団体総会では、探鳥会についての情報・意見交換の時間も予定されています。全国で活動される皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

(普及室/堀本理華)

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第7号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2013年10月17日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
